

研究資料

フィンランドにおける包括的子育て支援 —福祉ネウボラと「KEINU」モデル—

柴田 千賀子

Chikako Shibata: A Comprehensive Childcare Support System in Finland—The activity model of “Hyvinvointineuvola” and “KEINU”—: Bulletin of Sendai University, 49 (2) : 103-111, March, 2018.

Abstract: Finland established a unique, comprehensive childcare support system, involving various types of occupations as a team. The system is called “Neuvola”. One of the most unique things about this system is that Neuvola staff starts caring for the family’s needs before childbirth and generally the same staff continues to support them until he or she goes to school.

As we understand the current state of Neuvola and its next improvement in this ever-changing society, this documentation can be considered one of the most important resources. This was created in 2017 when there were active discussions around making the Neuvola system more flexible and robust. For instance, one of the promoted programs called KEINU is in a process of solidifying and developing its offerings catered towards families with children. The documentation covers the following: Overview – the activity model of Tampere City welfare, Neuvola and KEINU, Project plan - Tampere City welfare, Neuvola and KEINU (2010 ~ 2013)

This content can be utilized as a guideline to expand our own comprehensive childcare support system in Japan. Furthermore, it can help us evaluate the sustainability of Neuvola system.

Key words: Support for parenting, Neuvola, Collaboration of multiple occupations

キーワード: 子育て支援, ネウボラ, 多職種間連携

I. はじめに

フィンランドにおける子育て支援は、多職種が連携するワンストップ型の包括的な支援策となっている。この支援策は、「ネウボラ (Neuvola)」¹⁾ と呼ばれ、妊娠期から就学前までの支援を、原則として同じネウボラ職員が担当する²⁾ という独自のシステムを展開している。以下に掲載するのは、中部フィンランドにおける経済的、文化的な中心地であるタンペレ市³⁾ のネウボラが刊行した2010年以降のネウボラに関するガイドラインおよびアンケート調査用紙の日本語訳である。従来、ネウボラ

は、「出産に向けて妊婦と家族を支援する」⁴⁾ ための「出産ネウボラ」⁵⁾ また、「乳幼児の成長・発達、母親の心身の健康、家族全体の関係性と生活の安定を支援する」⁶⁾ ための「子どもネウボラ」⁷⁾ など、その対応時期に応じて存在していたが、家族の形態の多様化や社会情勢の変化により、同施策の取り組みが拡充され、多職種間の連携や家庭への支援がより強く包含されることとなった。本翻訳では、2010年以降本格的に開始された施策である福祉ネウボラ (Hyvinvointineuvola)⁸⁾ とその中に位置づけられている多職種間連携チーム「KEINU」⁹⁾ に関する資料の全文を訳出することにより、フィ

ンランドの包括的な子育て支援の実際を明らかにするための資料を提供するものとする。「KEINU」はフィンランド語でブランコという意味をもち、この言葉が使われる所以は、多職種がブランコのスウィングのように滑らかに連携して切れ目のない支援を実施するというところにある。しかしながら、「ブランコ」と名付けるには更なる根拠の収集に努めなければならないことから、本稿では原語の「KEINU」を使用することとする。なお、資料の翻訳にあたっては、タンペレ市ネウボラ刊行のフィンランド語による原文資料¹⁰⁾を参考とした。

II. 福祉ネウボラと「KEINU」モデルに関する資料 (2010年～2017年)

1. 福祉ネウボラと「KEINU」モデルの概要

Hyvinvointineuvolan toimintamalli ja Lapsiperheiden tiimipalvelu KEINU

福祉ネウボラの活動目的は、家族全体のウェルビーイングと子育てへの支援を行うということである。活動の内容は、出産ネウボラから子どもネウボラへの移行の支援と KEINU という子どものいる家庭向けの支援チーム¹¹⁾の活動である。

出産ネウボラ、子どもネウボラの保健師と医療関係者は、妊娠期から子どもが就学するまでの間、連携して支援していくことになる。KEINUには、さらに保健師、医師、臨床心理士、ソーシャルワーカーそして保育者と家族ネウボラの代表といった多職種のメンバーが含まれることになる。

福祉ネウボラの活動は子育てに関する問題の予防に重点を置いている。家庭内での問題が大きくなる前に、早期の支援を行うことが目的である。

出産ネウボラ、子どもネウボラでは、家族との話し合いの一助として、家族の状況を把握するためのアンケートが利用されている。母親と父親は別々にアンケートを記入し、その内容について保健師と共に話し合うことになる。専門性をもった第三者が間に入ることにより、家庭

内で日々起こる問題が解決しやすくなる。

タンペレ在住の多くの乳幼児と保護者の生活状況は良好であり、一般的な保健師と医師のサービスで十分である。しかし中には、失業による不安やアルコール中毒、精神的な病といった深刻な問題を抱えている家庭もある。家族が希望すれば、KEINU チームは共に問題の解決を探ることが可能である。多職種が連携している KEINU では、チームメンバーのいずれに繋ぐことも可能である。

タンペレ市の最初の福祉ネウボラは先進的な活動として2003年リンナインマー地区で開始され、利用者からの評価が好評だったために、この活動は次第にタンペレ市全体に広がることになった。2012年、福祉ネウボラの中の多職種間連携チームは「KEINU」と呼ばれることになった。2014年には90%のネウボラが KEINU モデルを導入した¹²⁾。

出産ネウボラ、子どもネウボラ
主任医師
トゥイレ・サンイスト (Tuire Sannisto)
主任保健師
レーナ・ヴェカラ (Leena Vekara)
KEINU 監督委員会会長
主任医師トゥイレ・サンイスト (Tuire Sannisto)
KEINU コーディネーター長
課長ティッタ・ペルツタリ (Titta Pelttari)

2. 福祉ネウボラの2010年～2013年までの戦略と実際

Hyvinvointineuvolan strateginen toteutus ja suunnittelu 2010-2013

1) 福祉ネウボラの定義

福祉ネウボラは子どものいる家庭向けの支援システムで、保護者と子どもへの基本的なネウボラ的支援と KEINU という多職種間連携チームの支援からなっている。

2) 福祉ネウボラの機能

(1) KEINU という多職種間連携支援チームが全ての家庭への支援を担う。チームは

保健師、医師、臨床心理士、ソーシャルワーカーそして保育者と家族ネウボラの代表といった多職種の専門家で構成されている。

- (2) 家族はどの職種を通してでも、KEINU チームに簡単に繋がることできる。
- (3) 多職種の専門家との協同によって、各家族は幅広い専門知識を得ることができる。担当する KEINU のメンバーは家族の状況や必要性に合わせて選出される。
- (4) KEINU チームは、最低でも 3 週間に一度の会議をもつ。
- (5) KEINU チームには、チームリーダーとサブリーダーをおく。

3) KEINU の基本的な任務

- (1) 家庭との面談の実施。
- (2) 多職種間での連携を基にした支援の実施。
- (3) チームのメンバー同士で専門性を伝え合い、更なる専門性の向上を促す会議をもつ。
- (4) 地域の特性に合わせた支援の開発を行う。

4) 福祉ネウボラの機能を支える様々な活動形態

- (1) 切れ目のない支援を重視した出産ネウボラと子どもネウボラの健診
- (2) 妊娠前後の家庭訪問
- (3) 必要に応じた複数体制での家庭訪問
- (4) グループ健診
- (5) 子育て支援講座
- (6) 子育て、夫婦関係、子どもの発達、親子間の早期相互作用を支援するための親同士のピアグループ編成
- (7) 支援の必要性を把握するため、また、KEINU での話し合いの素材とするためのアンケート実施(妊娠期, 3~4ヶ月児, 15~18ヶ月児)

5) 戦略

タンペレ市の子ども青少年発達支援戦略において、福祉ネウボラ活動が市全体のネウボラで導入される。

6) 関連条例

ネウボラ活動と学校保健と学生保健そして青少年歯科衛生予防に関する政府の条令。例えば 7 条, 9 条, 13 条。(2009 年 5 月 28 日ヘルシンキで可決された)

7) 活動

条令の中では様々な専門家の協力と家族全体の生活状況を把握することが求められている。条令による要求は福祉ネウボラの活動モデルの実行によって対応できる。つまり、親子間の相互作用への支援、妊娠期、乳児期の既存の健康診断に加え、家族の精神面の支援や家庭全体への早期援助の機会を増やすことが目的である。

8) KEINU からの問いかけ①

よく眠れますか？自分の子どものことを喜んでいますか？あなたのお子さんには友達がいいますか？パートナーとの会話は成り立っていますか？子どもと一緒にどんな楽しいことをしていますか？子どもの反抗に対して、いらいらしますか？笑うより泣く時の方が多いですか？

子どもとの日常は冒険のようなものです。学びの楽しさ、発見の喜び、思いもよらない事件、急な展開などです。時にはいろいろな事件が相次いで起こり、日々の生活はその対応に追われ、次第に日常の問題が蓄積されていきます。問題の解決策は簡単に見つからないものです。自分や身近な人へ、どのように質問していいのかさえも分からないかもしれません。あなたは一人で問題を抱えなくてもいいのです。KEINU はあなたの家族が直面する日々の出来事のために、チーム一丸となって支援を提供していきます。健康不安、疲労、社会生活、日々の活動、挑戦や夫婦関係など、KEINU チームはありとあらゆる家庭生活の課題を真摯に受け止めます。問題が深刻にならないうちに、支援を受けてください。

必要を感じたら、ネウボラ施設または保育施設に連絡してください。そして、共にあなたの日常の助けとなるものを探しましょう。

9) KEINUからの問いかけ②

あなたの家族は疲れていませんか？あなたは子どもの行動の変化に不安を抱いていませんか？あなたの夫婦関係に心配なことはありませんか？家族への支援や助けが必要だと感じたことはありませんか？一人で悩まず、KEINUに連絡してください。日々の問題の蓄積によって親が疲弊すると、子どもの行動にも影響を及ぼします。KEINUは、子育ての困難に対して、多様な職種の専門家がチームを組んで支援を提供します。

KEINUは、医師、看護師、保健師、臨床心理士、ソーシャルワーカー、出産ネウボラ、子どもネ

ウボラと保育施設の代表がチームを編成して、家庭内の日常の問題を柔軟に、そして専門的に解決していきます。寄せられた課題について、KEINUチームだけで話し合うことも、家族も参加して話し合うことも可能です。いずれにせよ家庭内の問題を取り扱う場合は必ず保護者の承諾を取ります。

KEINUを通し専門職のメンバー自身も仕事に対する専門性を高め、他の専門家から様々な問題解決の方法を学びます。そして専門家は更に支援者に対して専門性の高い支援を実施することが可能になります。

3. KEINUカード¹³⁾

KEINUKORTTI

チームの面談の前に家族が記入するカード

家族との連絡先

保護者の名前 保護者の名前

保護者の名字 保護者の名字

電話番号

メールアドレス

子どもの名前

【家族の背景】

- 1) どんなことに関して KEINU チームの支援を望んでいますか？
- 2) 以下のスケールで現状を推定してください。一番適切な場所を記してください。
1 = 最低の状況 10 = 問題が解決され良い生活状況
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩
- 3) 今の状況を改善するためにどのような方法を試しましたか？

【目標】

- 4) 状況はどうなってほしいですか？
- 5) KEINU チームに、どのような支援をしてほしいですか？
- 6) 日付とサイン

KEINU チームが記入するカード

- 1) 面談の日付と場所

【家族の出席者】

【KEINU チームの出席者】

【KEINU チームのメンバーの職種】

- 保健師
- 医師
- 臨床心理士
- ソーシャルワーカー

保育園の代表

福祉ネウボラの代表

その他の専門家

【取り扱い事項と決定事項】

2) 何について話をしましたか？

3) これから誰がどのようなスケジュールで行動しますか？

4) 計画の実行はどのように確認しますか？

【カスタマー担当職員】

5) この話し合いで決定したことに関して何か聞きたいことがありましたら、連絡担当者／カスタマー受付係にご連絡ください。

6) 名前と職場の電話番号

【フィードバックについて】

7) 対象者のフィードバックをしてください。

4. カスタマー・フィードバック用紙

ASIAKASPALAUATELOMAKE

KEINU の活動の発展のために、あなたの経験に基づいて、いくつかの質問に答えてください。

【記入者は】

母親 父親 その他 ()

【次の項目で、あなたの状況／体験に当てはまっているかを「1 = 全く当てはまらない」から「5 = とてもよく当てはまる」のスケールで評価してください。】

- | | | | | | |
|------------------------------------|---|---|---|---|---|
| ①チームとの面談は早期に実現し、十分に行うことができた。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ②対等な関係性を保つことができた。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ③自分の言いたいことを聴いてもらい、理解してもらえた。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ④自分にとって必要な専門家が出席していると感じた。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑤全く関係のない人も来ていたような気がした。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑥面談の後は気持ちが楽になった。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑦面談中に窮屈さを感じた。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑧面談は自分と家族にとって意義のあることだと信じていることができる。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

【面談を通して、あなたの家族はどのように支援を受けたと感じますか？】

【あなたの家庭への支援は継続していますか？】 はい いいえ

【KEINU サービスは他の家族にも勧めたいですか？】 はい いいえ

【今回の面談の全体評価はどれぐらいですか？】 (1 ~ 10)

【面談の良し悪しについて】

5. ネウボラ提出用 保育施設に通う1歳半¹⁴⁾の子どもについての観察評価

(保育施設からネウボラへ提出する書類)

(2012年春季より実施)

(実施主 タンペレ市保育課)

- ①この用紙により、約1歳半の子どもの発育発達状況や家庭の状況について情報を集めます。
- ②観察評価について、ネウボラに提出する前に保護者と共に話し合ってください。

子どもの情報と 園のグループの情報	子どもの名前 (生年月日)
	保護者の名前
	保育施設名 (入園年月日)
	グループ (子どもの年齢と人数)
子どもの観察評価	<p>日常のスキルと日常のタスクへの対処能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば登園時や帰る時の様子, 食事, 食器の使い方, 昼寝, 外遊びなど <p>言葉, コミュニケーション能力, 遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大人(親, その他の大人)と他の子どもとどのようにコミュニケーションをとっていますか. ・保育中に, どのような遊びをしますか. ・目を合わせることができますか. ・人の真似をしようとしますか. (行動, 言語, リズム) ・言葉かけ, また自分の名前を呼ばれた際に, どのように反応しますか. ・日常生活ではどのようにコミュニケーションをとっていますか. ・相手からの指示や言葉の理解はどの程度ですか. ・わらべうたや本/朗読に対する子どもの興味はどの程度ですか.
	<p>運動能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの室内と屋外での運動はどのようなものですか. ・玩具身のまわりの物をどのように扱いますか.
保育の中での支援	
必要と思われる支援	
巡回する特別幼児教員	名前 電話番号
場所と日付	
観察評価を行った担当者氏名と連絡先	
親の承諾	<p>保育施設とネウボラとが, 自分の子どもについての話し合いを行うことに同意します.</p> <p>はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/></p> <p>タンペレ市 年 月 日</p> <p>親のサイン</p>
	<p>家族がこの用紙をネウボラに届けます.</p>

6. 保育施設提出用 ネウボラに通う4歳¹⁵⁾の子どもについての観察評価

(ネウボラから保育施設へ提出する書類)

(2012年春季より実施)

(実施主 タンペレ市保育課)

4歳児の発達の観察評価

ネウボラから保育サービス機関へのフィードバック

子どもの名前	生年月日
ネウボラの名前	

	注意点	注意点なし
健診での様子		
視力と聴力		
身体の成長		
運動能力		
発話と言葉の発達		
目や手の動き		

ネウボラによる更なる検査の案内(紹介状)

--

保育の中で注意する点

--

用紙の記入者

日付	保育士	電話番号
日付	医師	電話番号

ネウボラと保育サービス機関の協力に関する親の承諾

日付		
親のサイン	親のサイン	

7. ネウボラ提出用 保育施設に通う4歳の子どもについての観察評価

(保育施設からネウボラへ提出する書類)

(2012年春季より実施)

(実施主 タンペレ市保育課)

保育施設における4歳児

保育施設が記入するネウボラ提出用の用紙

【子どもの名前】

【生年月日】

【子どもの母語】

【保育施設の名前】

【保育の形式】

全日利用
 一時保育
 解放型の保育

【基本的生活習慣】

①一人で衣服の着脱ができる.

はい
 練習中
 まだです

②自分で食事をする.

③自主的にトイレに行く.

【基本的な生活習慣】

- | | はい | 練習中 | まだです |
|----------------------------|--------------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| ④保育施設の一日の流れを把握している。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ⑤取り組んでいる活動から別の活動へ移ることができる。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ⑥昼寝。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 毎日寝る | <input type="checkbox"/> 時々寝る |

【運動機能】

- | | はい | ときどき | まだです |
|------------------------|--------------------------|--------------------------------|--------------------------------|
| ①上手に走る。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ②狭い通路・線に沿って歩く。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ③両足を合わせてジャンプする。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ④両足を交互に使って階段を登る。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ⑤よじ登る。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ⑥体の部位を理解し、それぞれの名前が言える。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ⑦他者が理解できる絵を描く。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ⑧はさみを用いて切る。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ⑨パズルを組み立てる。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 12ピース | <input type="checkbox"/> 20ピース |
| ⑩利き手。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 右 | <input type="checkbox"/> 左 |
| ⑪ペンの握り方。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> 握る |
| | | | <input type="checkbox"/> 交代する |
| | | | <input type="checkbox"/> その他 |

【言葉とコミュニケーション】

- | | 普段 | ときどき | まだです |
|---|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| ①相手と目を合わせ続ける。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ②相手の話を聞く。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ③指示通りに行動する。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ④物語やおとぎ話に興味を持っている。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ⑤自ら話をして、相手の話も理解する。
(言葉の課題：発音の問題、吃音などはあるか。) | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ⑥1～4の数字と数の関係がわかる。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ⑦基礎的な色を区別し、それぞれの名前が言える。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ⑧短い物語や出来事を語るができる。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |

【遊び、社会的な場面における長所と短所】

【心配していることはありますか、そのことについてどのように対応していますか】

【ネウボラへのメッセージ】

【記入者 日付】

【電話番号】

【ネウボラと保育施設の連携に関する親の承諾】

【注および文献】

- 1) フィンランドの子育て支援は、1940年代初頭の妊婦健診不待着や妊娠期、周産期や乳幼児期の母子健康リスクの放置に驚愕した政府が着手したネウボラ萌芽政策により、大きな変革を見た。その目的は、新生児・乳児と母親の健康のために衛生・栄養面での助言と情報提供をすること、そして、妊娠の初期から妊婦皆を定期検診につなげることである。1944年には市町村自治体によりネウボラの制度化がなされ、それに対応して出産ネウボラと子どもネウボラが急増し、出生率の向上、妊婦健診の推進、乳児死亡率の改善、乳幼児の健康な成長が目指されていった。
- 2) ネウボラでは、「同じ担当者が、医療面での健康診断だけでなく、生活面での支援の一環として母親手当など社会保障に関する手続きや助言、地域での子育て支援活動を行っている民間グループの情報提供まで、1つの窓口として責任をもって本人に寄り添うことで、支援者側にとっても効率的であり、本人も安心できる」高橋睦子（2015）ネウボラフィンランドの出産・子育て支援。かもがわ出版：15頁～19頁。
- 3) 人口は約22万人、フィンランド第三の都市である。タンペレ市ホームページ <http://www.visittampere.fi/> / 2017年11月20日閲覧。
- 4) 高橋睦子（2015）ネウボラフィンランドの出産・子育て支援。かもがわ出版：13頁。
- 5) フィンランド語では、äitiysneuvola。日本語表記は、高橋睦子（2015）ネウボラフィンランドの出産・子育て支援。かもがわ出版：13頁。に表記されている「出産ネウボラ」が現時点で一般的な呼称である。
- 6) 高橋睦子（2015）ネウボラフィンランドの出産・子育て支援。かもがわ出版：13頁。
- 7) フィンランド語では、lastenneuvola。日本語表記は、高橋睦子（2015）ネウボラフィンランドの出産・子育て支援。かもがわ出版：13頁。に表記されている「子どもネウボラ」が現時点で一般的な呼称である。
- 8) 「Hyvinvointineuvola」の「Hyvinvointi」は、直訳すると幸福を意味するが、活動の内容を鑑み、また広義の解釈を用いて、福祉ネウボラと呼ぶこととする。
- 9) 「KEINU」は直訳すると、スウィングを意味し、時にブランコという意味でも用いられる。
- 10) 2016年にタンペレ市ムオティアラ地区ネウボラ、2017年にタンペレ市タンペラ地区ネウボラを訪問調査した際に直接受け取った資料である。
- 11) 本資料が作成されるまで、すなわちKEINUモデルが提唱される以前にも同様のチームが編成されており、福祉ネウボラチームと呼ばれていた。KEINUは多職種間の連携を更に柔軟に、スムーズに繋ぐ目的で編成された。
- 12) 2017年8月タンペレ市タンペラ地区ネウボラ訪問時の主任保健師レーナ・ヴェカラ（Leena Vekara）氏へのインタビュー調査により、2017年には100%導入されていることが確認された。
- 13) このカードは、チームが面談を実施する前に、家族が記入する部分と、KEINUチームが記入する部分に分かれている。各項目は、網掛けにて記す。
- 14) 保育施設とネウボラとの連携を図るために、1歳半児に実施される発達調査票。タンペレ市では、2012年より実施されている。
- 15) 保育施設とネウボラとの連携を図るために、4歳児に実施される発達調査票。この様式は、ネウボラから保育施設へ提出する書類。タンペレ市では、2012年より実施されている。
- 16) 保育施設とネウボラとの連携を図るために、4歳児に実施される発達調査票。この様式は、保育施設からネウボラへ提出する書類。タンペレ市では、2012年より実施されている。

（ 2017年11月30日受付 ）
 （ 2018年1月30日受理 ）

